

授業科目名 (講義題目)	中国ビジネス		開講学期 単位数	前期集中 2単位
担当教員	古田 茂美	講義コード	科目区分 対象学生	選択 1・2年生
		17176018		
開講予定日	①② 8/18 ③④⑤⑥⑦ 8/19 ⑧⑨⑩⑪ 8/20 ⑫⑬ 8/21 ⑭⑮ 8/22			
履修条件	講義や文献読破で中国企業行動を説明する各種理念型を学習し理解度を最終テストで確認	キーワード	グワンシ、人情、面子、合股、「公」と「私」、天思想、信賞必罰、戦わずして勝つ、等	
全体の教育 目標	中国ビジネス＝中国企業組織行動の運動法則を知ることと認識。運動法則体系的知識習得	個別の学習 目標	4つのパラダイムとその構成要素としての各種理念型を学習すること	

授業の概要

(1)「資源特性理解」:

中国赴任業務命令が出て中国に出されたからには、或いは中華事業に着手したからには、或いは将来かかる事業を立ち上げるなら、それなりの成果を挙げたい、このような企業目的を遂行するコースである。

中国経済の構造調整が開始したことで新たな市場需要が生まれ日本が誇る各種技術やクールジャパンに代表される日本文化を搭載した各種製品やサービスの対中市場進出が新たなチャンスとして台頭してきており、世界的にも著しい少子高齢化や巨額の財政赤字負担に直面する我国企業にとって、中間所得市場が新ニーズを産みだし、尚且つシルクロード経済圏なる新たな市場創造を目指す中国の新動向を、我国企業成長のチャンスとして捉えられるかが喫緊の課題となっている。

本コースの目的は、如何にして中国事業における経営上の成果を挙げるかに尽きる。中国事業にはツボのようなものがある、読み間違えたり、対応を誤ると、予想外の持ち出しが発生し、結局当初目的が達成できなくなることも少なくない。「高い授業料を払わなくても」事前によく勉強し理解しておけば、大いにリスク回避にはなる。現地で、或いは日本で、ヒト、モノ、カネを調達し、企業活動ラインにそれらを投入し、目的に沿ってコントロールしていく管理能力が必要になる。

本コースでは、経営活動に資源が投入され、それが管理統合されて、事業レベル、全社レベルで付加価値創造し、当初の経営目標を達成するという「資源論」の立場を採用した考え方が基盤になる。

ここで対象としている資源は中国資源である。日本の運動法則を持った資源とは異なる運動法則を持っており、それらの特性を理解することを中心に学習する。中国資源には時代が経過しても変わらない独自の運動法則があり、資源特性を十分理解する必要がある。資源を理解すれば、次はそれを統合するための組織作りを取り掛かれる。労働目的を理解しそれを刺激すれば、思うような行動を現地労働者から引き出せる。それを実現した組織作りが可能である。

有利な関係構築は中国事業にとって死活的であり、かような資源特性理解と統合方法習得が本コースの重要な目的となっている。それを、コースメニューをこなす中で達成していきたい。

授業の進め方

(2)「方法論」

本コースでは、資源が賦存する空間を、中国・華人事業マクロ環境と中国・華人企業ミクロ行動原理に分けて考える。政治や行政、経済など、ビジネスをする上での「環境」も一つの投入すべき外的資源と言えるし、また人材や部材、資金などはビジネスをする上で企業内に投入すべき内的資源と言えそれらは各々の「行動原理」を持っている。

中国・華人ビジネス上の「環境」要因と「行動原理」要因を考える上で、本コースでは、中国企業の交渉様式を構造的に分析した著名なルシアンパイ教授後に輩出し、パイを越えたトニーファン MIT 教授のパラダイム理論を活用する。ファンはパイが活用した「儒教」価値体系に加え、「中国兵法」体系を加味したモデル化に成功した。これによって中国企業の内からの行動原理説明がより精緻になったのである。

また、中国企業行動を外から支配する環境要因として「国情」概念を体系化し、外国人に分かり易く説明した。これによって中国企業の対外資企業交渉様式の複雑性を相当単純化することが可能になった。これに近年のグローバル化やの「走出去」政策への転換による、中国企業の大陸から海外への環境変化を鑑み、中国企業の海外活動行動を予測するのに最も有効と思われる「華人ネットワーク」論を融合した。

本コースでは「国情」(中国事業マクロ環境)、「儒教」、「兵法」(中国・華人事業ミクロ行動原理)、「華人ネットワーク」(華人事業マクロ環境)の4つのパラダイム理解を最低必須学習内容とする。個々のパラダイム構造理解を経た上で、それらパラダイムが実際に現代中国・華人企業行動上で機能しているか否かを社会科学の検証方法に基づいて実証していき最後にはそれらパラダイムを統合し、日系企業が在中華圏でオペレーションする際、どのような組織や事業プロセス上の戦略を構築すべきかを検討する。

受講者は、テキスト読解とディスカッションを通じて学習内容を反復し吟味し思考を繰り返すことによって、華人・中国企業行動原理の枠組を心理的に内製化する能力を身に着ける。着地点では中国人との対峙方法に深みが出る他、中方企業の出方を予見し、交渉運営や切り抜け方などの戦法、戦術などの構築、或いは、高い信用・信頼関係を築く手法を身に着ける実践的コースである。

<授業の進め方>

毎回の講義、ディスカッション、最終日に学習した基本理念の理解度を確認する為のテスト実施

テキスト指示頁以外の必読資料はプリント配布

教科書および
参考図書

<教科書>

古田茂美『4つのパラダイムで理解する中華文化圏進出の羅針盤』、ユニオンプレス、2005年

<参考図書>

Tony Fang, "Chinese Business Negotiation Style" SAGE Publications, International Education and Professional Publisher, London, New York

デビッド・ツエ / 古田茂美共著、『グワンシ』ディスカバー社、2011年

古田茂美『兵法がわかれば中国人が分かる』、ディスカバー携書、2011年

古田茂美『中国人との関係のつくり方』、ディスカバー携書、2011年

濱下武志『香港—アジアのネットワーク都市』ちくま新書、『中国近代経済史研究』、

原不二夫、『東南アジア華僑』、アジア経済研究所

渡辺利夫、『華人経済ネットワーク』実業之日本、『アジア経済読本』東洋経済新報社

ミン・チェン、長谷川啓之、『東アジアの経営システム比較』新評論

小川政道、高橋英明、『アジアにおける経営ローカライゼーション』中央経済社

伊藤禎一、『東南アジアの経営風土』白桃書房

可児弘明、『華僑、華人辞典』

岩田籠子、『現代中国の経営風土』文真堂

任文侠、『現代中国の企業経営』文真堂

岩崎育夫、『華人資本の政治経済学』

斯波義信『華僑』岩波新書

山下清海『東南アジア華人社会と中国僑郷』古今書院

洪沢栄一『論語と算盤』国書刊行会

河田悌一、『中国を見つめて』研文出版

河田悌一、『中国近代思想と現代』、研文出版

孔建、『孔子の経営学』PHP

杉田俊明、『中国ビジネスのリスク・マネジメント』ダイヤモンド社

杉田俊明、『国際ビジネス形態と中国の経済発展』、中央経済社

王効平、『華人系資本の企業経営』、日本経済評論社

小室直樹、『中国原論』徳間書店

溝口雄三、『中国の公と私』研文出版

溝口雄三、『方法としての中国』、東京大学出版会

溝口雄三、『中国という視座』、平凡社

園田茂人、『中国人の心理と行動』、日本放送出版会

園田茂人、『日本企業アジアへ』、有非閣

園田茂人『証言・日中合弁』大修館書店

園田茂人、『中国事業は何故失敗するか』、亜紀書房

ルシアン・パイ、『中国人の交渉スタイル』、園田茂人訳、大修館書店

金耀基、『中国社会興文化』Oxford University Press

試験・成績評
価の方法等

- ① 出席率 (20%)
- ② クラス内発言状況 (30%)
- ③ テスト (50%)